京都市立芸術大学
日本伝統音楽研究センター

×

京都市文化観光資源保護財団

京の伝統行事・伝統芸能特別講座 講義と実演

京の民俗芸能の音と声
―鉦（かね）の力―

第2回講座 「念佛行事の意義を考えてみる」
―なんのためにやる？やったらどうなる？―

講師 田鍬 智志（京都市立芸術大学 准教授）
実演 西方寺六斎念佛保存会（京都市北区 西方寺）

11.2日 13:30～15:10
開場・受付開始13:00

大阪府下の双盤念仏伝承調査（2007～9年）や、奈良県御所市の東佐味（ひがしさび）六斎念仏の伝承代行に関ってきた講師が、各地の念仏芸を訪ね歩き、また念仏を実践するなかで、沸き起こるさまざまな疑問―これは何のためにやるのか？やったらどうなるの？なぜ念仏を歌うように唱えるの？なぜ鉦打ちながら唱えるの？なぜ念仏に身振り手ぶり踊りをつけるの？―そういった疑問にたいして、講師は、法華経や浄土三部経などの経論の教えに、その答えをもとめます。

講演の終わりには、念仏をご披露いただく西方寺六斎保存会の方々と講師とのトークセッション。念仏実践の意義を、時代の潮流を考慮して、改めて問い直します。

お申込みはwebで（先着順）
事前申込の方 絵はがきプレゼント
2025年
9月26日（金）～10月22日（水）17:00
○当日席あり（事前申込優先）
○申込方法詳細
https://www.kyobunka.or.jp/
お申込みはこちらから

第3回講座 「大念佛狂言の音と声」
―千本ゑんま堂大念佛狂言に聞く―

講師 藤田 隆則（京都市立芸術大学 教授）
実演 千本ゑんま堂大念佛狂言保存会（京都市上京区 引接寺（千本ゑんま堂））

12.21日 13:30～15:10
開場・受付開始13:00

京都には大念佛狂言が三箇所で伝えられています。嵯峨清涼寺と壬生寺の大念佛狂言は、無言のパントマイムで演じられますが、千本ゑんま堂大念佛狂言は、役者自身が声を出してセリフを言う点に特徴があります。

本講座では、千本ゑんま堂大念佛狂言のセリフにみられる言葉の抑揚、独特な言い回し、擬音語などを紹介し、音と声の面から、セリフ劇としてのゑんま堂狂言のユニークさを明らかにします。

また、セリフに並んで重要なのが、舞台上で演奏される鉦（鰐口（わにぐち））と太鼓と笛の発する音です。楽器の音がもっている舞台進行上の役割や、その音の宗教的な意味を明らかにすることで、より豊かな鑑賞が可能になるはずです。

今回の講座では、特にゑんま堂狂言の特徴がわかる演目『悪太郎（あくたろう）』の演技にも注目です。

お申込みはwebで（先着順）
事前申込の方 絵はがきプレゼント
2025年
9月26日（金）～12月10日（水）17:00
○当日席あり（事前申込優先）
○申込方法詳細
https://www.kyobunka.or.jp/
お申込みはこちらから

場所 京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）4階ホール

定員 各回300名 入場無料

主催：公益財団法人京都市文化観光資源保護財団　共催：京都市立芸術大学 日本伝統音楽研究センター
後援：京都市・京都市教育委員会　協力：西方寺六斎念佛保存会、千本ゑんま堂大念佛狂言保存会

文化庁 Agency for Cultural Affairs, Government of Japan
本事業は、令和7年度 文化庁文化芸術振興費補助金（地域文化財総合活用推進事業）の補助を受けて実施しています。

Musical Instruments in Kyoto Folk Performing Arts

ー鉦の力ー 民俗芸能の音楽は魅力的だ。

日本の民俗芸能において太鼓や笛と共に用いられるのが、金属楽器の鉦です。直径は10～20cm。深い縁がある円盤形をしており、撞木と呼ばれる棒で叩いて鳴らします。寺院や一般家庭の仏壇に置かれた鏧子の澄んだやわらかい音とは対照的に、鉦は複雑な倍音を含んでおり、鋭く強い音を出す楽器です。

口称念仏の助けとして用いられ始めた鉦は、やがて、曲打ちなど魅せる要素が加味されて、芸能的性格を帯びていきます。その代表が京都で今も盛んにおこなわれている六斎念仏や大念佛狂言です。鉦は「廻向鉦」として、亡者の正覚を促す重要な意義がありますが、そのような理屈めいたことを、娯楽性・諧謔性というオブラートに包みこんで、楽しみのなかで仏道を究められるのが、京都の六斎念仏・大念佛狂言といえるでしょう。

六斎念仏や大念佛狂言においても鉦の音はかかせません。その音は、芸能の進行を司る合図の役割を担うだけではなく、芸能の行われる場を特別な雰囲気に仕立て上げる役割を担っています。

本講座では、京の伝統芸能の基調となる鉦の響きを出発点に、音や響きからみる六斎念仏や大念佛狂言の魅力をお伝えします。

第2回講座 「念佛行事の意義を考えてみる」
―なんのためにやる？やったらどうなる？―

実　演

西方寺六斎念佛保存会
「京都の六斎念仏」国指定重要無形民俗文化財 ユネスコ無形文化遺産

六斎とはもともと毎月8日、14日、15日、23日、29日、30日の計6日の斎日（いみび）のことで、悪鬼が人命を奪う不吉の日とされ、この日に念仏や和讃などを唱え、鉦太鼓で囃したのが六斎念仏の始まりという。

京都の六斎念仏は18世紀、江戸時代中頃にそれまでの古くからの伝統を引き継ぐ念仏六斎と京都近郊の若者を中心に当時流行した芸能的要素を導入した芸能六斎が成立し、京都で普及していった。

現在は京都六斎念仏保存団体連合会が結成され、各地域でお盆を中心として見ることができる。

西方寺六斎念仏は、京都市北区の西方寺で執り行われ、念佛系六斎として派手な芸能要素はありませんが、原初の六斎念仏を伝える貴重な習慣として伝わっています。毎年、8月16日の送り火法要として舟形修了後に奉納されます。

講　師

京都市立芸術大学 准教授
田鍬 智志 Satoshi Takuwa

1974年生。2012年より京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター准教授。平安・鎌倉時代の雅楽古譜解読と演奏を主研究とする一方で、各地の民間芸能調査研究にも携わる。2012年以降鎌倉時代の楽譜などにもとづく「順次往生講式」再現に取り組み、2023年に大原勝林院にて全段・全曲を厳修した。

第3回講座 「大念佛狂言の音と声」
―千本ゑんま堂大念佛狂言に聞く―

実　演

千本ゑんま堂大念佛狂言保存会
京都市登録　無形民俗文化財

千本ゑんま堂狂言は、平安時代にゑんま堂を創建した定覚上人が布教のため、大念佛法会を始めた事が起こりと伝えられています。その後一時中断しましたが、鎌倉時代に再興され、室町時代には隆盛を極めました。

当時、大名達と変わらない力を持っていた寺社は、布教活動のために、念佛法会を開き、その中の余興として、念佛踊りや寸劇などを公開していました。それが、少しずつ宗教色が薄れ、演劇色が強くなったのが念佛狂言です。

京都の念佛狂言は3つあり、千本ゑんま堂狂言・壬生狂言・嵯峨狂言の総称が「念佛狂言」であるが、神泉苑狂言を含めて4大念佛狂言と呼ぶこともあります。

どの狂言も保存会（講）の保存会員（講中）により公演活動を行っており、保存会員は本業の傍ら狂言を演じています。

講　師

京都市立芸術大学 教授
藤田 隆則 Takanori Fujita

1961年生まれ。京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター教授。研究対象は能・声明などの中世芸能および音曲。著書に『能のノリと地拍子』など。現在は日本の伝統音楽を次世代に伝えるための応用的研究に従事。

会　場

京都市生涯学習総合センター（京都アスニー）4階ホール

〒604-8401　京都市中京区聚楽廻松下町9－2（京都市中京区丸太町通七本松西入）

アクセス

市バス	15、52、93、202、204系統「丸太町七本松」下車すぐ 6、46、55、201、206系統「千本丸太町」西へ徒歩400m
京都バス	62、63、65、66系統「丸太町七本松」下車すぐ
JRバス	「丸太町七本松」下車すぐ

主催・企画　公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団

お問い合わせ　TEL:075-752-0235（月－金 9:00～17:00・土日祝休）

公式Facebook　公式Instagram kyobunka_1969　公式X（旧Twitter） @kyobunka_1969